

平成 30 年度 第 3 回学校運営協議会記録

1. 日 時 平成 31 年 2 月 22 日(月) 14 時 00 分～15 時 30 分

2. 場 所 本校校長室

3. 出席者 学校協議会委員 (6 名)

大阪教育大学教授	廣木 義久
八尾市立成法中学校長	横川 一敏
八尾市立八尾小学校長	木下 由季
八尾市内学習塾代表	児玉 隆
本校同窓会副会長	松村 康隆
本校 PTA 会長	重村 吉則

4. 協議概要

協議に先立って、

「平成 30 年度学校経営計画および学校評価」、

「平成 31 年度学校経営計画」、

「平成 30 年度学校教育自己診断アンケート結果」、

「雑感 41 号 73 期『学習時間目標設定の取組』の成果」、

「雑感 43 号 『スーパー 3 学期制』のたたき台を提示」

「進路指導部から近況」等の報告を行いました。

以下、協議において出席委員から出された主な意見等です。

(学校広報関係)

- 八尾高ブランドという意識は依然として強く、「学力が高く憧れの学校」という中学生の評価は変わっていない。
ただ、現在学校が取り組んでいる改革や新学習指導要領への対応などは、中学生に伝わっていない。
私学専願で受験する中学生がますます増加する現状に鑑みて、私学との違いについても積極的に広報すべきだと考える。
- 保護者が利用している SNS の拡散力を広報に活用させていただく方法を模索してはどうか。八尾高体育祭等のハッシュタグをつけてもらうだけで、強力な情報発信力を持つ。

(学校の特色の打ち出し方について)

- 地域の保護者や教育産業は、八尾高のことを面倒見の良い進学校だと理解している。文武両道を掲げる他の進学校との違いをもっとアピールすれば良いと思う。

- 私学と違って学校生活に制約が少なく、文武両道でリーダーシップを身につけられるというところを評価している中学生は八尾高を志望する。
勉強と部活動の両方を最後まで真剣に頑張り抜くという「八尾高校らしい文武両道」が、大学入試改革で求められる学生像と合致しているということをもっと訴えるべきだと思う。
- 八尾高校は体育の授業が厳しいというイメージを持っている中学生は今だにいる。保護者世代のイメージが残っていることがその原因の一つだと思われる。
これは全くの誤解であることを地道に伝える必要がある。

(大学入試動向)

- 国公立大学も推薦入試・AO入試枠を増やす方向であり、学力だけでなく、高校生活を通じた学びを点数化して総合的に評価しようとしている。これにより、学力だけを評価するのではなく、学力に加えて主体的に活動できるかどうかということが問われることになる。
そういう力を養えるという点で八尾高には強みがあり、そのことをいち早く中学生に伝えていくことが重要であると思う。

(大阪教育大学との提携について)

- 中学校には八尾高出身の先生も多く、実際教職の身近なモデルとなっている。教職を考えている生徒には大阪教育大学との提携は非常に魅力的な制度であることから、教職をめざす中学生に八尾高の魅力をもっとアピールすべきである。